

チャペルだより

第 214 号

2025. 4. 1

前期主題 「共生のハーモニー」(コリントの信徒への手紙一 12章12節～20節)
“Harmonious with coexistence.” (1st CORINTHIANS 12:12-20)

主題聖句

12体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。13つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。14体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。15足が、「わたしは手ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。16耳が、「わたしは目ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。17もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし全体が耳だったら、どこでおいをかぎますか。18そこで神は、御自分の望みのままに、体に一つ一つの部分を置かれたのです。19すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。20だから、多くの部分があっても、一つの体なのです。

編集 広島女学院大学宗教委員会

〒732-0063 広島市東区牛田東4-13-1 TEL (082) 228-0386
http://www.hju.ac.jp/ E-mail:hjucac@gaines.hju.ac.jp

新入生の皆さんへ

大学生活を始めるにあたって

院長・学長 三谷 高康 先生

「あなたたちは真理を知り、真理はあなた方を自由にする」という有名な言葉があります。これは新約聖書ヨハネによる福音書の一節ですが、国会図書館の壁にはこの聖句がギリシャ語で書かれています。おそらく、訪れる人に対して、“沢山の本を読んで知識を広げれば、「真理」、つまり「本当のこと、まことの道理」(広辞苑)を知ることができる。そうすれば、根拠のない偏見や先入観、間違った判断から自由になれる。これが、真理はあなたたちを自由にするのだ。”と伝えなかったのでしょうか。

でも、頭の中の知識を増やすだけでは十分ではありません。安曇野の「碌山美術館」には、「万巻の書を読み、千里の道を行く」という萩原守衛(碌山)の言葉が掲げてあります。「万巻の書を読む」ことで得た知識を「千里の道を行く」ことで身をもって確認する、という意味でしょう。そこには、実際に「旅行をして見聞を広げる」という意味もあるでしょうが、もう少し深い意味もこめられているように思います。人生そのものが「千里の道」なのだと思います。その遙かな道を弛まず歩み、知識を実生活に生かして行くことによって、初めて人は「真理」を本当に「知る」ことができる。彫刻家であった萩原碌山は、そう考えたのでしょうか。

大学での学習は「学問」と表現するのが適切だと思いますが、その「学問」とは真理の探究を目的にした知的営みです。そして、そこには二つの基本的な姿勢が求められます。一つは、継続的な姿勢です。碌山の言葉を借りれば、道をたゆまず歩むということです。つまり学問とは生涯にわたって学び続ける姿勢が重要だということです。大学とは、そうした向上心を培う教育の場です。21世紀は知識の量が飛躍的に増大し、グローバル化によりその知識は常に変化し続けています。そうした状況下でするので、学び続けることの重要性がますます問われるようになってきました。その為に、皆さん方はまず基礎的な学力を身につける必要があります。コミュニケーションス

キルや語学力、或いは特定の学問領域の基礎的な知識、さらには情報科学分野の運用能力など、初年度の科目群をしっかりと履修する事が重要です。そして、そのうえで専攻する特定の学問分野を体系的に理解し、自己と歴史・社会・自然との関連付けを探ることへと進んでいきます。そうした学びの過程で、私たちは自分で考える主体的な能力、つまり「ぶれない個」を養い、課題を発見しそれを解決する、いわゆる考え抜く力が身につけていきます。

二番目の姿勢は、真理への謙虚さです。「学問」の「学」は「学ぶ」ということですが、これは「まねぶ」すなわち「まねる」という意味を含んでいます。優れた教えや態度を吸収するという意味合いがあります。そのためには「優れたものに対する謙虚さ」が必要です。私はもう足りていません、十分です、と思ったら「学び」はストップしてしまいます。

「真理に対する謙虚さ」は人格を「陶冶」(bildung)する、即ち、道徳性を培うと言われてきました。これは19世紀のドイツの教育哲学者フンボルトの教えですが、今の時代に言いかえると、大学での学修を通して私たちは自己完結の人生観から解き放たれて、他者の立場に身を置く共感の姿勢を獲得するということです。グローバルな時代に生きる私たちは、異文化を背景とするさまざまな人たちと相互の理解を深める必要があります。更に、学ぶことは自分自身の為だけではなく、隣人や社会の為であることを忘れてはなりません。

4年間の学生生活は長いようで短いものです。貴重な時期ですから、学生生活のなかで多くの仲間と出会い友情を育て、また学業を通じて教員と信頼関係を築き、多くのことを学び取ってください。分からないことは積極的に問い、教員の知識や経験を媒介に一人一人が、自分の人間性を豊かに育ててください。

最後に、自由に伸び伸びと大学生活を過ごすことを期待しています。なぜなら、「真理はあなた方を自由にする」からです。

前期宗教強調週間

特別講演会講師

被爆体験証言者・平和のためのヒロシマ通訳者グループ 代表、本学院卒業生

プログラム

おぐら けいこ
小倉 桂子 さん

5月19日(月)～22日(木)は、前期宗教強調週間です。

＊5月20日(火) 「キリスト教の時間」 13:00～13:45 (砂本記念講堂)

「私もメソジストです」 マタイによる福音書6章25～34節

被爆体験証言者・平和のためのヒロシマ通訳者グループ 代表、本学院卒業生

小倉 桂子さん

＊5月21日(水) 特別講演会 13:00～14:30 (砂本記念講堂)

「ヒロシマを忘れない人々」 マタイによる福音書6章34節

被爆体験証言者・平和のためのヒロシマ通訳者グループ 代表、本学院卒業生

小倉 桂子さん

★講師を囲む懇談会 14:45～15:45 (ゲーンスタチャペルロビー)

＊5月22日(木) 「木曜日チャペル」 12:30～12:50 (ゲーンスタチャペル)

大学宗教委員長・宗教センター長 栗津原 淳 先生

◆学内献血 5月26日(月) 受付 12:30～16:30 (ヒノハラホール前)



講師紹介

講師：おぐら けいこさん(被爆体験証言者・平和のためのヒロシマ通訳者グループ 代表、本学院卒業生)

学生へのメッセージ

広島女学院大学の皆さまこんにちは。昨年12月10日に日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)のノーベル平和賞の授賞式に出席し、翌日の11日に関連のフォーラムに登壇する機会を得ましたので、オスロで撮った写真や動画を見ながらオスロの5日間を中心にご報告させていただきます。

- 20日(火)は授賞式の前夜にあった「宗派を超えて世界平和のために共に祈る、エキュメニカル・ピースサービス」に参加した経験を中心にお話します。
- 21日(水)は、原爆投下から5年後の広島女学院中学の入学試験の日から、40年以上にわたり海外の人に広島を語り続け、G7広島サミットを経てオスロに至るまでの私の人生を駆け足で、ときには念入りにお話させていただきます。

- ◆なぜ広島女学院を目指したか
- ◆夫の死が世界の人々にヒロシマを語るスタートとなった
- ◆G7ヒロシマ・サミット
- ◆戦後のヒロシマと広島女学院とキリスト教
- ◆世界の核被害者との出会い
- ◆オスロで「ヒロシマ」に出会う



2025年度第25回キリスト教主義大学ジョイント8.6平和学習プログラム参加者募集中です

今年で第25回目を迎えます「キリスト教主義大学ジョイント8.6平和学習プログラム」の参加者を募集しています。このプログラムは、本学学生と宗教委員会が他大学に参加を呼びかけて、ともにこの被爆地ヒロシマを舞台に平和の問題を考える集いです。コロナ禍のため、2020年度は中止、2011年度から2023年度はオンラインで開催しました。2024年度からは対面で実施しています。8月4日(月)から6日(水)まで3日間のプログラムで実施し、平和記念公園にて資料館見学・碑めぐり、講義、平和祈念式出席、意見交換などを行います。

企画から実施まで、このプログラム全般にわたって活動する参加者を募集しています。(ハンドブックのP14もご参照ください)

問い合わせ・申し込みは、宗教センターまで。
Tel: 082-228-0415 E-mail: hjucac@gaines.hju.ac.jp



＊詳細が決まり次第、ポータル等を通じて連絡しますのでご確認ください。

キリスト教に基づくエッセイ 57

共に食べ、共に生きる ～오빙이어 〈五餅二魚〉

日本文化学科 一色 舞子

“イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて、弟子たちに渡しては配らせ、二匹の魚も皆に分配された。すべての人が食べて満腹した。”

マルコによる福音書 6:41-42

韓国では一人で食べてはいけない！？

今、韓国で『孤独のグルメ』が大人気だ。『孤独のグルメ』は、主人公の井之頭五郎が仕事の合間に一人で自由に食事をを楽しむ様子を描いたグルメ漫画・ドラマである。松重豊氏が演じる“ゴローさん”は、今や韓国で最も知られた日本人キャラクターと言っても過言ではない。

私が韓国に留学をしていた2000年代初め、飲食店などで一人で食事することはあまり一般的ではなかった。一人で食事をしようものなら、韓国の友人に「なんで一人で食べるの!？」と怒られながら食堂に連れて行かれたこともあった。また、街中の飲食店では注文が2人前からという店も多く、一人でコーヒーチェーン店に行き、カウンターで飲み物一杯とケーキ一つを注文しても、フォークが2本ついてくることがあった。

近年、韓国でも“혼밥(一人で食事をする)”や“혼술(一人で酒を飲む)”という言葉が使われるようになり、一人で食事をしたり、お酒を飲んだりする人が増えている。『孤独のグルメ』が受け入れられた背景にも、このような食事をめぐる社会的な変化が関係しているのかもしれない。

“1+1”で“나눠 먹다”

韓国では食事の際、一つの料理をシェアすることが多い。焼肉を食べに行くと、トッペギという小さな土鍋に入ったチゲが出てくる。留学当初、私は「複数人いるのに一人分しかチゲが出てきてないなあ。誰かが代表して食べるのかな？」などと考え、手を付けずにいたのだが、私以外の人々が次々に自分のスプーンでそのチゲを飲み始めたのだ。チゲの“直スプーン”飲みにも最初は驚いたが、「郷に入っては郷に従え」。そのうち抵抗なく受け入れるようになった。

直箸や直スプーンではないにしても、日本でも一つの料理を皆でシェアすることはよくある。しかし、「自分のために買ったものは自分一人で食べる」というのが一般的ではないだろうか。大学院生の時、共同研究室のデスクで研究の合間

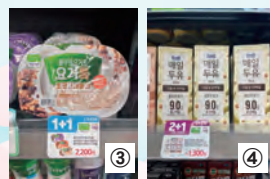
にコンビニで買ってきたお菓子をよく食べていたのだが、ある日親しくしていた韓国人留学生らがこちらを見てヒソヒソ話しているのに気がついた。「何だろう?」と思い彼らのほうに目をやると、そのうちの一人が「一色さんはいつも一人でお菓子を食べて皆に分けようとしなくていい」と言うのだ。「自分のお金で自分のために買ったお菓子を一人で食べて何が悪い」と憤ったが、その時、ふと韓国留学時に覚えた“나눠 먹다”という言葉の思い出した。

“나눠 먹다”とは、日本語で「分けて食べる」という意味の韓国語だ。韓国では皆で食事をするだけでなく、食べ物は皆でシェアして食べる。「콩 한쪽도 나눠 먹는다(豆一粒も分けて食べる)」という諺もあるくらいだ。一人で食事することは寂しいことであり、食べ物を独り占めすることは情がない。彼らにとって、いつも一人でお菓子を食べている私は「寂しい存在」であり、「情がなかった」のだろう。

今でこそ“ゴローさん”のように、一人で自由に食事を楽しむ人も多いようであるが、あの時出会った韓国人の人々のように、皆で一緒に分け合って食べると、食事が単なる栄養摂取や空腹を満たす行為ではなく、人と人の繋がりを深めるものだと実感する。韓国には“1+1”という割引手法がある。食料品などを1つ買うと、もう一つ無料で付けてくるのだ。これも単なる販売戦略ではなく、誰か“シェア”することが前提となっている。「食べ物は皆で分け合うもの」という韓国の文化的背景があってこそ成立するものなのだ。



写真①② いずれも韓国の飲食店にて。メインの焼肉や焼魚、チゲだけでなく、パンチャン(副菜)も皆で分け合って食べる。



写真③④ いずれも韓国のコンビニにて。お菓子や飲み物が“1+1”のほか、“2+1”や“3+1”で売られているのをよく見かける。

2025年度宗教委員を紹介します

新年度が始まりました。新入生、上級生のみなさん、広島女学院大学の建学の精神への理解を深め、現代社会のさまざまな出来事を学んでいきましょう。宗教委員会は「キリスト教の時間」、「木曜日チャペル」を始め、多彩な行事と活動を企画していきます。意見や感想など、どんなことでも私たち宗教委員、宗教センター職員に気軽にお寄せください。

大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生 (日本キリスト教団教務教師、国際英語学科)

宗教委員 前田 美和子 先生 (日本キリスト教団教務教師、日本文化学科)

Robert Dormer 先生 (国際英語学科)

一色 舞子 先生 (日本文化学科)

鍵山 昌信 先生 (生活デザイン学科)

川邊 揚一郎 先生 (管理栄養学科)

三樹 正典 先生 (児童教育学科)

宗教センター 榎 良平 加納 暢子

2025年度 前期チャペル表（4月～7月）

前期主題：「共生のハーモニー」（コリントの信徒への手紙一 12章12節～20節）

“Harmonious with coexistence.”（1st CORINTHIANS 12:12-20）

月	日	火曜日「キリスト教の時間」 13:00～13:45 砂本記念講堂	司会	木曜日チャペル 12:30～12:50 ゲーンズチャペル
4	8	「賛美歌を歌おう（賛美歌のお話と歌唱指導）」 ★聖歌隊 大学オルガニスト、広島女学院同窓生、日本キリスト教団讃美歌委員 玉理 照子 先生	粟津原	10 パイプオルガンコンサート 大学オルガニスト 玉理 照子 先生
	15	前期主題解説 「共生のハーモニー」（コリントの信徒への手紙一12章12節～20節） 大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生	粟津原	17 管理栄養学科 実験実習助手 廣政 優貴さん
	22	ゲーンズ記念礼拝 ※ゲーンズデー コリントの信徒への手紙一 3章6～9節 院長・学長 三谷 高康 先生	粟津原	24 国際英語学科 John Herbert 先生
	29	「カルト宗教の危険性について」 高木 総平 先生（中部学院大学 宗教総主事）	鍵山	5/1 【学生活動報告】 管理栄養学科 海外フィールドワーク報告
5	6	振替休日		8 入試・広報室 大和 満帆 さん
	13	日本赤十字社 広島県赤十字血液センター	鍵山	15 【学生活動報告】 日本文化学科 加計高等学校芸北分校 サマーセミナー報告
5	20 (火)	キリスト教の時間 13:00～13:45 砂本記念講堂 「私もメソジストです」マタイによる福音書6章25～34節 小倉 桂子 さん（被爆体験証言者・平和のためのヒロシマ通訳者グループ 代表、本学院卒業生） 司会：大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳		
	21 (水)	特別講演会 13:00～14:30 砂本記念講堂 ★聖歌隊 「ヒロシマを忘れない人々」マタイによる福音書6章34節 小倉 桂子 さん（被爆体験証言者・平和のためのヒロシマ通訳者グループ 代表、本学院卒業生） 司会：大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 ★講師を囲む懇談会 14:45～15:45（ゲーンズチャペルロビー）		
	22 (木)	木曜日チャペル 12:30～12:50 ゲーンズチャペル 大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生		◆学内献血◆ 5月26日(月) 12:30～16:30 場所：ヒノハラホール前
6	27	清胤 祐子 先生 （浄土真宗本願寺派 正覚寺坊守・安芸太田町教育長職務代理）	川邊	29 児童教育学科 中村 勝美 先生
	3	原山 恵 さん（森林ボランティア団体もりゆう代表）	三柵	5 【学生活動報告】 生活デザイン学科 地域連携デザインセミナー
	10	プライド月間 坂根 桃瑛 さん（広島市立大学国際学研究所博士後期課程）	一色	プライド月間関係 （調整中）
	17	沖繩慰霊の日を祈念して 沖繩県人会、本学名誉教授 桐木 建始 先生 沖繩県人会「南風（ふゑーかじ）」のみなさま （※講師 交渉中）	三柵	19 総合学生支援センター事務課 田形 積 さん
24	久保 宏輔 さん（サゴタニ牧農・砂谷株式会社取締役副社長）	川邊	26 生活デザイン学科 真木 利江 先生	
7	第59回原爆講座 - 8.6の意味するもの -			
	1	被爆証言 嘉屋重 順子 さん （広島県原爆被害者団体協議会常任理事 自由美術協会会員 本学院同窓生）	粟津原	3 【学生活動報告】 児童教育学科
	8	高橋 信雄 さん （広島教育研究所理事、広島県原水協代表理事）	一色	10 チャペルオルガニストによる オルガンコンサート
	15	本学院同窓生からのメッセージ 豊島 貴子 さん （岩国商工会議所会頭、CGS コーポレーション社長、本学短期大学部卒業生）	鍵山	17 院長・学長 三谷 高康 先生
	22	「前期を振り返って」 大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生	粟津原	

※プライド月間とは、毎年6月にアメリカのニューヨークで起きた「ストーンウォール事件」がきっかけになっています。アメリカで初めて全国的に報道されたセクシャルマイノリティの抵抗運動で、事件の合った6月を「LGBTプライド月間」と呼ぶようになりました。
《参考》SDGs CONNECT <https://sdgs-connect.com/archives/54510#LGBT-2>

※「キリスト教の時間」 奏楽：大学オルガニスト 玉理 照子先生